

看護における“Transformative learning”: 概念分析

嶋津多恵子

国立看護大学校：〒204-8575 東京都清瀬市梅園 1-2-1
shimadut@adm.ncn.ac.jp

Transformative Learning in Nursing: A Concept Analysis

Taeko Shimazu

National College of Nursing, Japan ; 1-2-1 Umezono, Kiyose-shi, Tokyo, 〒204-8575, Japan

[Abstract] Purpose: The purpose of this concept analysis was to redefine the concept of “transformative learning in nursing” by reviewing the literature and examining its characteristics. **Method:** Seven databases were searched: CINAHL, MEDLINE, PsycINFO, SocINDEX, Ichushi Web, Saishinkangogakusakuin Web, and CiNii. Search terms were: “transformative learning” and “nursing.” Thirty three published articles which meet the criteria were analyzed using Rodgers evolutionary method of concept analysis. **Results:** Five attributes of the concept of “transformative learning in nursing” were identified: 1)experience, 2)notice, 3)disorienting dilemma, 4)dialogue, and 5)perspective transformation. **Conclusion:** Transformative learning in nursing was redefined as a process of perspective transformation as a nursing professional with autonomous reflection by reflecting through dialog about experience or notice and occasionally by reflecting critically in the face of a disorienting dilemma. This process could bring about the improvement in the quality of a patient's care and impelling social transformation.

[Keywords] 変容的学習 transformative learning, 意識変容 perspective transformation, 看護 nursing, 概念分析 concept analysis

I 緒言

わが国における健康課題の多様化、高度化に伴い、保健師は、住民ニーズに的確に対応し効果的な保健活動を展開することが求められている。また保健師は、組織の中で役割をもち、政策、施策、事業の流れの中でコミュニティを対象とした活動を展開する特徴（木下，2009）があり、ここでは組織に働きかける能力が重要となる。これらの課題に対応する保健師の継続的な資質向上を図るべく、保健師現任教育の体系や実施体制（厚生労働省，2013）、キャリアアラダーが示されてきた（厚生労働省，2016）。

保健師現任教育の先行研究（嶋津ら，2014）で、保健師がプリセプターの役割を担うことは「保健師としての意識変容」と「組織の一員としての意識変容」につながる事が明らかとなった。そして意識変容につながるプロセスでは「新人との対話」が重要であった。また、プリセプターを担うことで、ネットワーク形成力や組織的視点が強化され、組織を変革したいと望むこと（Woolnough et al., 2006）が報告されている。Benner et al. (2010) は、自己変容の経験を意図的に活用した、専門職としてのアイデンティティの形成を促進する教育を示している。プリセプターなどの新たな役割を担うことは、Benner et al. (2010) の示す自己変容の経験の意図的活用となると考える。

教育学における成人教育の理論である“Transformative Learning Theory”は、新たな知識や経験、予期しないジレンマに遭遇したときの批判的省察により、意味パースペクティブの深まりと意識変容をもたらす学習のプロセス（Mezirow et al., 2009）として提示されている。この意識変容は、個人および社会を変革する原動力となるとされている。Transformative Learning Theory は教育学者 Mezirow により提唱され、藤岡ら（2002）は、成人教育における自己主導的学習の一環として変容的学習を位置付けている。

看護学領域では、Tashiro et al. (2014) によるリフレクションの概念分析で、関連概念として Transformative Learning を分類している。そして看護学の学部教育に Transformative Learning を適用した研究がなされている段階（Morris et al., 2012）である。今後は大学院教育やスタッフ教育を含むすべてのレベルの看護教育で適用できる理論（Morris et al., 2012）ともされてもいる。よって、Transformative Learning を保健師の人材育成に適用することは、看護学領域における理論適用の可能性の提言につながると思われる。

そこで、本研究は“Transformative learning”が、看護学領域ではどのように用いられているか、その概念を明らかにして再定義し、保健師人材育成への概念活用の有用性を検討することを目的とする。

Ⅱ 研究方法

1. 研究方法

Rodgers の概念分析のアプローチ (Rodgers et al., 2000) を用いた。

2. データ収集方法

本研究の対象となる文献は、英文献を CINAHL, MEDLINE, PsycINFO, SocINDEX のデータベースを使用して検索した。検索の範囲は年限を制限せず最新のものまで (2016年5月28日検索) とし, “Transformative learning” & “nursing” をキーワードにした文献は, 計 211 件であった。これらの文献の重複整理した結果である 135 件から, Rodgers et al. (2000, pp. 87-90) の 30 文献または全文献の 20% をランダムサンプリングする方法を参考に, 乱数表を用いて 30 文献を選定した。和文献については, 「変容的学習 OR 意識変容学習」AND 「看護」を医中誌 Web, CiNii および最新看護索引 Web で検索した結果, 4 件となり, 重複整理した結果 3 件であった。最終的に, 英文献 30 件および和文献 3 件の, 計 33 文献を対象とした。

なお, データベースによる文献検索は, Rodgers et al. (2000) を参考に図書館司書のコンサルテーションを受け実施した。

3. 分析方法

Rodgers et al. (2000) の概念分析は, 概念を時代や状況により変化するものと捉え, 言葉の性質や使われ方に焦点を当てる属性理論が哲学的基盤となっている。このアプローチを参考に, 対象文献を “Transformative learning” という用語の文脈における使われ方に着目しながら読み込んだ。データシートを作成し, 概念を構成する属性, 概念に先立って生じる先行要因, 概念に後続して生じる帰結, 関連概念に関する記述を抽出した。抽出した内容についてコード化し, その共通性と相違性に配慮しながらカテゴリー化を行なった。また, 分析中に考えたことはメモをとり, 解釈時の参考とした。看護理論の研究者によるスーパーバイズおよび公衆衛生看護学分野の研究会における検討により, 分析結果の真実性の確保に努めた。

Ⅲ 結果

1. 定義

看護における Transformative learning の定義は, いずれ

も Mezirow による Transformative learning の引用であった。

(Faulk et al., 2010 ; Parker et al., 2010 ; Foronda et al., 2012 ; Kear, 2013 ; Morris et al., 2007 ; Nairn et al., 2012)

Mezirow et al. (2000, pp. 7-8) による Transformative learning の定義は以下のとおりであった。

「自らの準拠枠 (意味パースペクティブ, 思考習慣, 固定化した思考) を, より包括的で識別的, 開放的で, 変化に対する情緒的な受容性をもち, より省察的になるよう変容させ, 行動を導くためにより真正であることが明らかになるような信念や持論を生み出していくプロセス」
“Transformative learning refers to the process by which we transform our taken-for-granted frames of reference (meaning perspectives, habits of minds, mind-sets) to make them more inclusive, discriminating, open, emotionally capable of change, and reflective so that they may generate beliefs and opinions that will prove more true or justified to guide action”.

以下, カテゴリーを 【 】, サブカテゴリーを 〈 〉 で示す。

2. 属性

属性は【経験】、【気付き】、【混乱的ジレンマ】、【対話】、【省察】の5つのカテゴリーがみられた (表1)。Transformative learning は, 【経験】や【気付き】から始まり, 【対話】を通して【省察】し, ときには【混乱的ジレンマ】に遭遇することで【省察】が深まり, 帰結となる【意識変容】をもたらすプロセスを示す概念であった。

【経験】は, 〈多面的な経験〉, 〈多様な価値観との遭遇〉, 〈経験の意味〉から構成された。

【気付き】は, 〈気付き〉と〈自己理解〉の2つから構成された。

【混乱的ジレンマ】は〈混乱的ジレンマ〉と〈認識の不一致〉から構成された。

【対話】は〈コミュニケーション〉, 〈他者との対話〉, 〈仲間とのディスカッション〉, 〈越境的対話〉, 〈考えを表現させる対話〉から構成された。

【省察】は, 〈自己省察〉, 〈前提の省察〉, 〈批判的省察〉, 〈包括的省察〉, 〈識別的省察〉, 〈看護における省察のレベル〉から構成された。

【省察】には, 〈前提の省察〉のように【気付き】に続いて起きるレベルと, ときには【混乱的ジレンマ】にも遭遇する中で深まる〈批判的省察〉までが含まれていた。また, 〈看護における省察のレベル〉の提示もみられた。

表1 看護における "Transformative learning" の属性

カテゴリー	サブカテゴリー	文献
経験	多面的な経験	(Kear, 2013) (Morris et al., 2012)
	多様な価値観との遭遇	(孫ら, 2015)
	経験の意味	(McAllister et al., 2011a) (Liimatainen et al., 2001) (Sword et al., 2009) (Parker et al., 2010) (Reimer et al., 2005)
気づき	気づき	(McAllister, et al., 2013) (McAllister et al., 2011a) (Reimer et al., 2005) (McAllister et al., 2011b)
	自己理解	(Morris et al., 2007) (Parker et al., 2010)
混乱的 ジレンマ	混乱的ジレンマ	(Reimer et al., 2005) (Parker et al., 2010) (Hsu, 2007) (Kear, 2013)
	認識の不一致	(Hsu, 2007) (Morris et al., 2007)
対話	コミュニケーション	(Kear, 2013)
	他者との対話	(Parker et al., 2010) (Sword et al., 2009)
	仲間との ディスカッション	(Parker et al., 2010) (Reimer et al., 2005) (Scholes et al., 2000)
	越境的対話	(孫ら, 2015)
	考えを表現させる対話	(McAllister et al., 2011b)
省察	自己省察	(Phillips et al., 2002) (McAllister, et al., 2013) (Kear, 2013) (Kuennen, 2015)
	前提の省察	(Stacey et al., 2012) (McAllister et al., 2011b) (Kear, 2013) (Parker et al., 2010) (Hsu, 2007) (Phillips et al., 2002) (Reimer et al., 2005) (Ruth-Sahd et al., 2008) (Ruth-Sahd et al., 2010) (Kuennen, 2015)
		批判的省察
	包括的省察	(Kear, 2013) (Kuennen, 2015)
	識別的省察	(Kear, 2013) (Kuennen, 2015)
	看護における省察の レベル	(Liimatainen et al., 2001)

3. 先行要件

先行要件は、【教育目的】、【評価目的】という目的を示すカテゴリーと、【教育課題】、【教育の前提】という背景を示すカテゴリーとの4つがみられた(表2)。

【教育目的】では、〈批判的思考を育てる〉、〈学生の共感力を育てる教育の枠組み〉、〈多様な文化の理解〉、〈社会的弱者の理解〉、〈法律や倫理的事象を学ぶ〉、〈遭遇している状況の深い理解〉、〈看護専門職としての役割のエンパワメント〉、〈ヘルスプロモーションの文脈における健康相談の理論基盤〉、〈知識を実践に結びつける〉、〈教育者の教育プ

ロセスやタイプを示す)を、〈看護学生の教育の基盤とするガイド〉のために Transformative learning が用いられていた。

【評価目的】では、〈グループリフレクションの評価〉、〈意識変容経験の分析〉、〈専門性における行動変容の評価〉、〈継続教育の評価〉のために Transformative learning が用いられていた。

【教育課題】には、〈学生の課題〉と〈教育者の課題〉があった。

【教育の前提】には、〈教育を促進する状況設定〉と〈教育の前提〉があった。

表2 看護における "Transformative learning" の先行要件

カテゴリー	サブカテゴリー	文献
教育目的	批判的思考を育てる	(Fitzpatrick, 2006) (Hsu, 2007) (McAllister, 2005) (Kuennen, 2015)
	学生の共感力を育てる教育の枠組み	(McAllister et al., 2011a)
	多様な文化の理解	(Hawala-Dru et al., 2012) (Scholes et al., 2000)
	社会的弱者の理解	(Kirkpatrick et al., 2011) (McAllister et al., 2011b) (Stacey et al., 2012)
	法律や倫理的事象を学ぶ	(Smith et al., 2013)
	遭遇している状況の深い理解	(Foronda et al., 2012)
	看護専門職としての役割のエンパワメント	(Morris et al., 2007)
	ヘルスプロモーションの文脈における健康相談の理論基盤	(Liimatainen et al., 2001)
	知識を実践に結びつける	(Parker et al., 2010) (大島ら, 2007)
	教育者の教育プロセスやタイプを示す	(McAllister, 2013) (Brown et al., 2009)
評価目的	看護学生の教育の基盤とするガイド	(Foronda et al., 2012) (Hawala-Dru et al., 2012) (Liu et al., 2011) (McAllister, 2013) (Kear, 2013) (Phillips et al., 2002)
	グループリフレクションの評価	(Nairn et al., 2012)
	意識変容経験の分析	(Kear, 2013)
	専門性における行動変容の評価	(Hsu, 2007)
教育課題	継続教育の評価	(Ruth-Sahd et al., 2008) (Ruth-Sahd et al., 2010)
	学生の課題	(McAllister et al., 2011b) (Smedley, 2007)
教育の前提	教育者の課題	(McAllister et al., 2011b)
	教育を促進する状況設定	(Hanson et al., 2013)
	教育の前提	(Hoover, 2002)

4. 帰結

帰結には、【意識変容】、【患者ケアの質の向上】、【教育力の向上】、【社会変革】の4つのカテゴリーがみられた。このうち、【患者ケアの質の向上】は、看護特有のアウトカムとして示された(表3)。

【意識変容】は省察の結果もたらされ、〈意識変容〉、〈自己変容〉、〈思考枠組みの変容〉、〈価値観の変容〉、〈前提の変容〉、〈信念の変容〉、〈関係性の変容〉、〈看護専門職としての変容〉、〈専門職者としての意識の変容〉、〈根拠に基づ

き実践する思考枠組み〉、〈行動変容〉で構成された。

【患者ケアの質の向上】には、〈患者アドボカシーの向上〉、〈異文化の人々へのケアの質向上〉、〈ヘルスプロモーションにおけるエンパワメント〉、〈実践の発展〉がみられた。

【教育力の向上】では、〈教員の自信の向上〉と〈教員が自律的に省察することを学ぶ〉がみられた。

【社会変革】には、〈個人と社会の変革〉、〈社会活動への動機〉、〈社会的公正への関与〉、〈社会変革への関与〉がみられた。

表3 看護における "Transformative learning" の帰結

カテゴリー	サブカテゴリー	文献
意識変容	意識変容	(Foronda et al., 2012) (Hsu, 2007) (Kear, 2013) (Parker et al., 2010) (Kear, 2013) (Kirkpatrick et al., 2011)
	自己変容	(Foronda et al., 2012) (Morris et al., 2007) (Phillips et al., 2002)
	思考枠組みの変容	(Kirkpatrick et al., 2011) (Liu et al., 2011) (Morris et al., 2007) (Parker et al., 2010) (大島ら, 2007) (孫ら, 2015)
	価値観の変容	(Kirkpatrick et al., 2011) (Morris et al., 2007) (Ruth-Sahd et al., 2010) (嶋津ら, 2014)
	前提の変容	(Kirkpatrick et al., 2011)
	信念の変容	(Kirkpatrick et al., 2011)
	関係性の変容	(Ruth-Sahd et al., 2010)
	看護専門職としての変容	(Ruth-Sahd et al., 2010) (McAllister et al., 2011a) (Foronda et al., 2012) (Morris et al., 2007)
	専門職者としての意識の変容	(Hanson 2013) (Phillips et al., 2002) (Morris et al., 2007) (Parker et al., 2010) (Kuennen, 2015) (嶋津ら, 2014)
	根拠に基づき実践する思考枠組み	(Kuennen, 2015)
	行動変容	(McAllister, 2013) (Morris, et al., 2007)
	患者ケアの質の向上	患者アドボカシーの向上
異文化の人々へのケアの質向上		(Hsu, 2007) (Hoover, 2002) (Stacey et al., 2012)
ヘルスプロモーションにおけるエンパワメント		(Liimatainen, et al., 2001)
実践の発展		(Liu et al., 2011) (Fitzpatrick, 2006)
教育力の向上	教員の自信の向上	(Hsu, 2007)
	教員が自律的に省察することを学ぶ	(Parker et al., 2010)
社会変革	個人と社会の変革	(Stacey et al., 2012) (Morris et al., 2007) (Reimer et al., 2005) (Parker et al., 2010)
	社会活動への動機	(Foronda et al., 2012)
	社会的公正への関与	(Reimer et al., 2005)
	社会変革への関与	(Kear, 2013) (Reimer et al., 2005) (Foronda et al., 2012)

5. 関連概念

関連概念には“transformative teaching” (McAllister, 2005), “transformative education” (McAllister et al., 2007) があった。“transformative teaching” は、批判的意識を育て、理論的学習を実践に変容させる。創造し、明確化・拡大・変化させる語りと、自分や他者への意味付けが意識変容をもたらす。

“transformative education” は、考え方の社会的構成をクリティックする学習活動を目的とする。

6. 概念図

以上の結果から、看護における Transformative learning の概念図を示す (図1)。

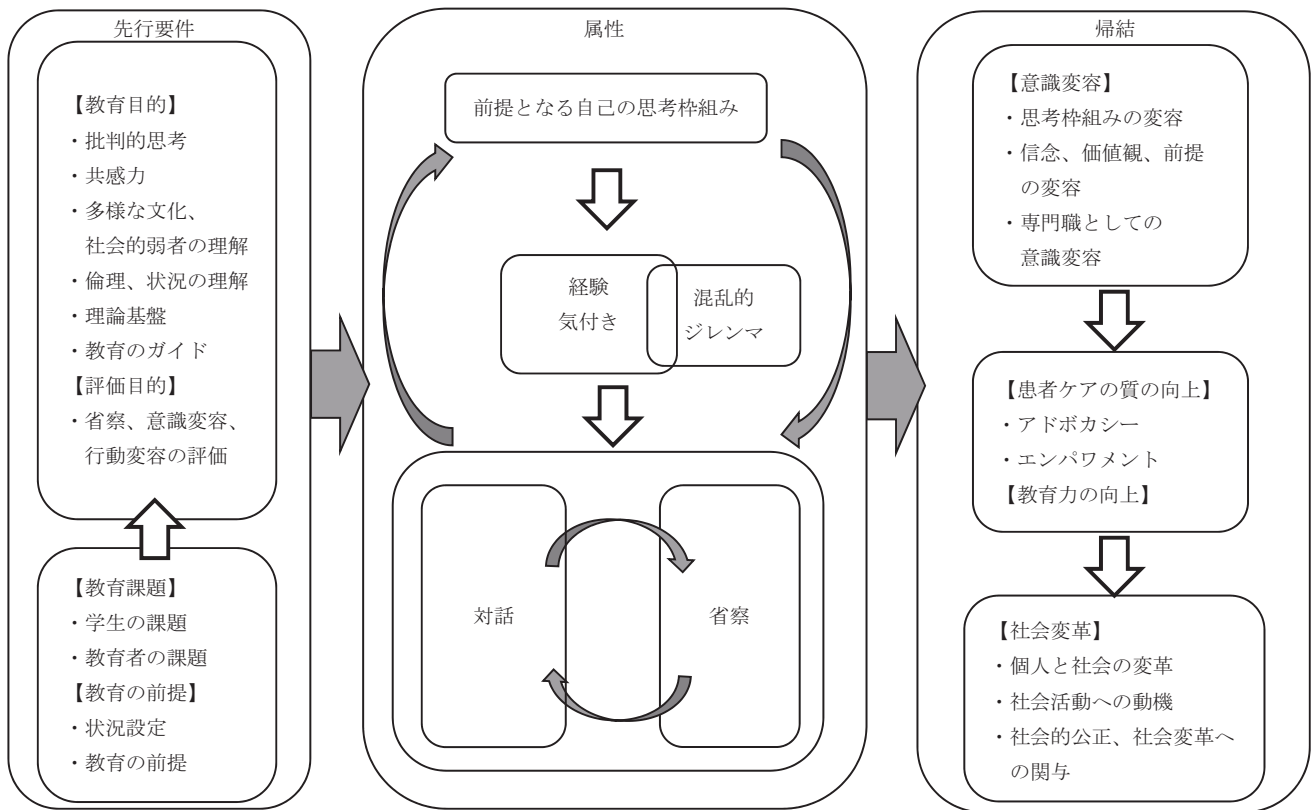


図1 看護における” Transformative learning” の概念図

IV 考察

本研究の結果から，“看護における Transformative learning” の概念の特徴を踏まえて再定義し，概念活用の有用性を検討する。

1. 看護における Transformative learning の概念の特徴

看護における Transformative learning は，【経験】や【気付き】から始まり，【対話】を通して【省察】し，ときには【混乱的ジレンマ】に遭遇することで【省察】が深まり，【意識変容】をもたらすプロセスを示す概念であった。とりわけ【省察】により，学習プロセスが進んでいくことが特徴であった。成人教育・生涯学習の分野において Cranton (1992; 1996) は，無意識にもっている教育観や自分の行動の基礎となっている「前提」について批判的に省察することの重要性を指摘している。

また帰結では，学習のアウトカムに相当する内容が示された。【意識変容】では，思考枠組み，価値観，信念，前提，関係性の変容などの，教育学における Transformative learning でみられる変容に加え，看護における Transformative learning の特徴として，看護専門職および専門職者としての意識変容がみられた。

Cranton (1992) は，意識変容について「自己の実践を振り返り，どのように問題にしたかを問うことで，これまで

気付かなかった前提（価値観）を明らかにし，その源を確定し，批判的に捉え直す。そして，実践についての現在のパースペクティブの代わりとなるものを創造する」ことを論じている。そして，自分自身の実践を語り，他の人に実践を聞いてもらうという協働の取り組みが意識変容を促すことの可能性を示唆している。本研究でみられた仲間や他者との対話，ディスカッション，コミュニケーション，考えを表現させる対話などの【対話】が Transformative learning を促すといえよう。

さらに帰結として，【意識変容】から導かれる【教育力の向上】や，社会活動への動機や社会変革への関与などの【社会変革】がみられたことは，教育学における Transformative learning と共通する。それらに加えて，看護における Transformative learning では【患者ケアの質の向上】がみられ，患者アドボカシーや異文化の人々へのケア，エンパワメントなど，対象者の文化や価値観の理解に基づくエンパワメントに関わるものと，〈実践の発展〉といった看護専門職者としての使命に関わるものがみられた。

看護における Transformative learning の特徴は，【意識変容】で〈看護専門職としての変容〉を捉えていること，【患者ケアの質の向上】をアウトカムとして用いていることである。また，教育の評価指標として〈看護における省察のレベル〉も用いられており，看護教育における省察のプロセスの重要性が示唆された。

以上、看護における Transformative learning の特徴について述べた。これらを踏まえて、看護における Transformative learning を「看護において経験したことや気付いたことについて、対話も通して省察し、ときには混乱的ジレンマに遭遇することでより深い批判的省察を行い、自律的に省察できる看護専門職として意識変容し、それが患者ケアの質の向上や教育力の向上、ひいては社会変革の原動力につながるプロセスを示す概念」と再定義した。

2. 概念活用の有用性

Transformative learning は、思考枠組み、信念、価値観、前提を問い直し意識変容を導く学習であるため、学習目的としては、思考枠組み、信念、価値観、前提に関わるテーマに適用性があると考えられる。

そこで、保健師の人材育成への Transformative learning の活用について検討する。保健師の人材育成において【患者ケアの質の向上】、【教育力の向上】や【社会変革】は教育の成果として重要である。特に保健師は、対象者の文化や価値観を理解しエンパワメントすること、法律や倫理的事象の理解、知識を実践に結び付け、専門職者として熟練したケアを提供し、実践を発展させることが求められる。そして組織の一員として政策に関わり（木下，2009）、ひいては社会改革にも関与していく役割がある。よって、本研究の看護における Transformative learning にみられた帰結は、保健師現任教育における研究への適用性があると考えられる。たとえば、保健師の得る学びがどのようなプロセスで、どのようなアウトカムを獲得し、どのような要因が関連するのかを明らかにする際に、看護における Transformative learning の概念を用いることは意義があると考えられる。

また、行政保健師は、自分の担当地域や担当業務に責任をもち、基本的には単独で地区活動するという活動特性をもつ。この活動の特性は、地域の健康課題を包括的に捉え解決できる反面、ときには自己流の思考枠組み、縦割りの役割意識を招く恐れもある。だからこそ、保健師の現任教育においては、自らの実践について他者と対話し省察する能力を育成することが重要と考える。そのための教育の理論基盤として、看護における Transformative learning を活用することは有用と考えられる。

3. 研究の限界と今後の課題

本研究の対象文献 33 件のうち、国内文献はすべて含めたが、わずか 3 件であった。今後は、看護における Transformative learning について国内における研究を蓄積し、日本の社会文化的背景を含めて本概念の検討を重ねる必要がある。

謝 辞

本研究論文の作成に際しご指導くださいました聖路加国際大学の田代順子教授、麻原きよみ教授に心より感謝申し上げます。本研究は、JSPS 科研費 26463578 の助成を受けたものです。

利益相反

開示すべき COI は存在しない。

■文献(* は概念分析に使用した文献を示す)

Benner, P., Sutphen M., Leonard V. et al. (2010)/ 早野真佐子 訳 (2011). ベナー ナースを育てる, pp. 120-134, 医学書院, 東京.

*Brown, S. T., Kirkpatrick, M. K., Greer, A., Matthias, A. D., & Swanson, M. S. (2009). The use of innovative pedagogies in nursing education: An international perspective. *Nursing Education Perspectives*, 30(3), 153-158.

Cranton, P. (1992)/ 入江直子, 豊田千代子, 三輪建二 訳 (2010). おとなの学びを拓く—自己決定と意識変容をめざして. 鳳書房, 東京.

Cranton, P.(1996)/ 入江直子, 三輪健二監訳 (2004). おとなの学びを創る—専門職の省察的实践をめざして—. 鳳書房, 東京.

*Faulk, D. R., Parker, F. M., & Morris, A. H. (2010). Reforming perspectives: MSN graduates' knowledge, attitudes and awareness of self-transformation. *International Journal of Nursing Education Scholarship*, 7(1), Article24, 1-15.

*Fitzpatrick, J. (2006). Self-assessment as a strategy to provoke integrative learning within a professional degree programme. *Learning in Health and Social Care*, 5(1), 23-34.

*Foronda, C. L., & Belknap, R. A. (2012). Short of transformation: American ADN students' thoughts, feelings, and experiences of studying abroad in a low-income country. *International Journal of Nursing Education Scholarship (IJNES)*, 9(1), 1-16.

藤岡完治, 堀喜久子 (2002). 看護教育学講座 3. 看護教育の方法. pp. 27-46, 医学書院, 東京.

*Hanson, J. (2013). From me to we: Transforming values and building professional community through narratives. *Nurse Education in Practice*, 13(2), 142-146.

*Hawala-Drury, S., & Hill, M. H. (2012). Interdisciplinary: Cultural competency and culturally congruent education for millennials in health professions. *Nurse Education Today*, 32(7), 772-778.

*Hoover, J. (2002). The personal and professional impact of

- undertaking an educational module on human caring. *Journal of Advanced Nursing*, 37(1), 79-86.
- *Hsu, L. (2007). Conducting clinical post-conference in clinical teaching: A qualitative study. *Journal of Clinical Nursing*, 16(8), 1525-1533.
- *Kear, T. M. (2013). Transformative learning during nursing education: A model of interconnectivity. *Nurse Education Today*, 33(9), 1083-1087.
- 木下由美子 (2009). 地域看護の理念と目的. 木下由美子, 麻原きよみ, 荒木田美香子他編, 地域看護学 第2版. pp. 1-20, 医歯薬出版株式会社, 東京.
- *Kirkpatrick, H., Tweedell, D., & Semogas, D. (2011). Transformative learning through a research practicum for undergraduate nursing students. *The Journal of Nursing Education*, 50(10), 595-598.
- 厚生労働省 (2013). 地域における保健師の保健活動について. 健発 0419 第1号, 厚生労働省健康局長通知.
- 厚生労働省 (2016). 保健師に係る研修のあり方等に関する検討会最終取りまとめ, 2016年8月17日アクセス, <http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10901000-Kenkoukyoku-Soumuka/0000120070.pdf>
- *Kuennen, J. K. (2015). Critical Reflection: A Transformative Learning Process Integrating Theory and Evidence-Based Practice. *Sigma Theta Tau International*, 12(5), 306-308.
- *Liimatainen, L., Poskiparta, M., Karhila, P., & Sjögren, A. (2001). The development of reflective learning in the context of health counselling and health promotion during nurse education. *Journal of Advanced Nursing*, 34(5), 648-658.
- *Liu, W., Edwards, H., & Courtney, M. (2011). The development and descriptions of an evidence-based case management educational program. *Nurse Education Today*, 31(8), e51-e57.
- *McAllister, M. (2005). Transformative teaching in nursing education: Leading by example. *Collegian (Royal College of Nursing, Australia)*, 12(2), 11-16.
- *McAllister, M., Downer, T., Framp, A., Hanson, J., Cope, J., & Gamble, T. (2011a). Building empathic practice through transformative learning theory. *Australian Nursing Journal (July 1993)*, 19(5), 22-22.
- *McAllister, M., Oprescu, F., Downer, T., Lyons, M., Pelly, F., & Barr, N. (2013). Evaluating STAR—A transformative learning framework: Interdisciplinary action research in health training. *Educational Action Research*, 21(1), 90-106.
- *McAllister, M., Tower, M., & Walker, R. (2007). Gentle interruptions: Transformative approaches to clinical teaching. *The Journal of Nursing Education*, 46(7), 304-312.
- *McAllister, M., Williams, L. M., Hope, J., Hallett, C., Framp, A., Doyle, B., et al. (2011b). In my day II: Reflecting on the transformative potential of incorporating celebrations into the nursing curriculum. *Nurse Education in Practice*, 11(4), 245-249.
- Mezirow, J., & Associates. (2000). *Learning as transformation: Critical perspectives on a theory in progress*. Jossey-Bass: San Francisco.
- Mezirow, J., & Taylor, E.W. (2009). *Transformative Learning in Practice: Insights from Community, Workplace, and Higher Education*. Jossey-Bass: San Francisco.
- *Morris, A. H., & Faulk, D. (2007). Perspective transformation: Enhancing the development of professionalism in RN-to-BSN students. *The Journal of Nursing Education*, 46(10), 445-451.
- Morris, A. H., & Faulk, D. R. (2012). *Transformative Learning in Nursing: A Guide for Nurse Educators*. Springer Publishing Company: New York.
- *Nairn, S., Chambers, D., Thompson, S., McGarry, J., & Chambers, K. (2012). Reflexivity and habitus: Opportunities and constraints on transformative learning. *Nursing Philosophy: An International Journal for Healthcare Professionals*, 13(3), 189-201.
- *大島理恵子, 増野園恵, 奥野信行, 渡邊智恵, 鶴山治, 南裕子, 他 (2007). 看護職向け災害看護研修の実施と評価. *日本災害看護学雑誌*, 8(3), 21-30.
- *Parker, B., & Myrick, F. (2010). Transformative learning as a context for human patient simulation. *The Journal of Nursing Education*, 49(6), 326-332.
- *Phillips, D., Fawns, R., & Hayes, B. (2002). From personal reflection to social positioning: The development of a transformational model of professional education in midwifery. *Nursing Inquiry*, 9(4), 239-249.
- *Reimer Kirkham, S., Van Hofwegen, L., & Hoe Harwood, C. (2005). Narratives of social justice: Learning in innovative clinical settings. *International Journal of Nursing Education Scholarship*, 2(1), 14.
- Rodgers B. L., & Knaff K. A. (2000). *Concept development in nursing: Foundations, Techniques, and applications*, 2nd ed. Saunders: Philadelphia.
- *Ruth-Sahd, L., Beck, J., & McCall, C. (2008). A brief report of research: Transformative learning during a summer nursing externship program: The reflections of senior nursing students. *Dimensions of Critical Care Nursing*:

DCCN, 27(6), 277-277.

- *Ruth-Sahd, L., Beck, J., & McCall, C. (2010). Transformative learning during a nursing externship program: The reflections of senior nursing students. *Nursing Education Perspectives*, 31(2), 78-83.
- *Scholes, J., & Moore, D. (2000). Clinical exchange: One model to achieve culturally sensitive care. *Nursing Inquiry*, 7(1), 61-71.
- *嶋津多恵子, 麻原きよみ (2014). 保健師がプリセプターの役割を担うことによる認識の変化. *日本看護科学学会誌*, 34, 330-339.
- *Smedley, A. (2007). The self-directed learning readiness of first year bachelor of nursing students. *Journal of Research in Nursing*, 12(4), 373-385.
- *Smith, K. V., Klaassen, J., Zimmerman, C., & An-Lin Cheng. (2013). The evolution of a high-fidelity patient simulation learning experience to teach legal and ethical issues. *Journal of Professional Nursing*, 29(3), 168-173.
- *孫大輔, 菊池真実, 中山和弘 (2015). カフェ型ヘルスコミュニケーション「みんくる」カフェにおける医療

系専門職と市民・患者の学び. *日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌*, 5(1), 37-45.

- *Stacey, G., & Stickley, T. (2012). Recovery as a threshold concept in mental health nurse education. *Nurse Education Today*, 32(5), 534-539.
- *Sword, W., Jack, S., Niccols, A., Milligan, K., Henderson, J., & Thabane, L. (2009). Integrated programs for women with substance use issues and their children: A qualitative meta-synthesis of processes and outcomes. *Harm Reduction Journal*, 6, 32-32.
- Tashiro, J., Shimpuku, Y., Naruse, K., Maftuhah, & Matsutani, M. (2013). Concept analysis of reflection in nursing professional development. *Japan Journal of Nursing Science*, 10(2), 170-179. doi:10.1111/j.1742-7924.2012.00222.x
- Woolnough, M. H., Davidson, J. M. & Fielden, L. S. (2006). The experiences of mentors on a career development and mentoring programme for female mental health nurses in the UK National Health Service. *Health Services Management Research*, 19, 186-196.

【要旨】 目的：看護における Transformative learning に関する文献から、概念の特徴を識別し再定義することを目的とした。方法：Rodgers の概念分析のアプローチを用いた。データ収集は、英文献は CINAHL, MEDLINE, PsycINFO 等、和文献は医中誌, CiNii 等のデータベースを使用し, "Transformative learning", "nursing" を検索用語とした。英文献 30 件および和文献 3 件の計 33 文献を本研究の対象とした。結果：属性は【経験】【気づき】【混乱的ジレンマ】【対話】【省察】、帰結は【意識変容】【患者ケアの質の向上】【教育力の向上】【社会変革】であった。結論：看護における Transformative learning を「看護において経験したことや気づいたことについて、対話も通して省察し、ときには混乱的ジレンマに遭遇することでより深い批判的省察を行い、自律的に省察できる看護専門職として意識変容し、それが患者ケアの質の向上や教育力の向上、ひいては社会変革の原動力につながるプロセスを示す概念」と再定義した。本概念は、保健師現任教育への活用の有用性が示唆された。

受付日 2016 年 9 月 6 日 採用決定日 2016 年 9 月 30 日